

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会

平成 29 年 6 月 27 日 (火)
15 : 30 ~ 17 : 00
富山河川国道事務所 3 階 大会議室

< 議 事 次 第 >

1. 開 会
2. 富山県部会長 挨拶
3. 議 題
 - (1) 平成 28 年度北陸建設会の担い手確保・育成推進協議会 (報告)
 - (2) 平成 29 年度の活動予定
 - (3) その他 意見交換等
 - － 建設業と繋がり無い学生 (他分野) や生徒に対する活動における相互協力のあり方
 - － 建設業界として ICT を活用するための他分野へのアプローチ
4. 閉 会

< 配 布 資 料 >

- ・議事次第、配席図、出席者名簿、設立趣旨
- ・規約
- ・富山部会メーリングリスト (H29.6 現在)
- ・資料 1 平成 28 年度北陸建設会の担い手確保・育成推進協議会 (関係資料抜粋)
 - － 富山県の建設分野の労働力需給状況等
 - － 平成 28 年度建設界の担い手確保・育成に関する取り組み
- ・資料 2 平成 29 年度 活動予定 (富山県部会)
- ・資料 3 富山県内現場見学先候補リスト
- ・資料 4 新規取組等における事務所担当窓口
- ・資料 5 「富山県インターンシップ推進センター」との連携
- ・資料 6 北陸 i-Construction 通信

- ・その他資料 (各構成員より)

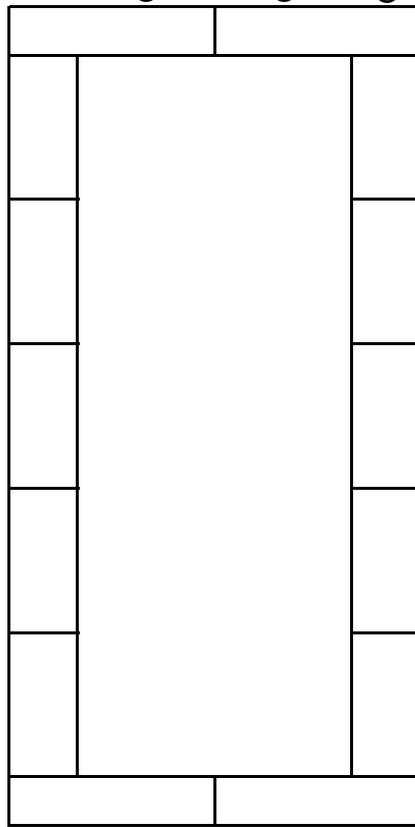
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 配 席 図

日時:平成29年 6月27日(火)15:30~17:00
会場:富山河川国道事務所 3階大会議室

出入口

出入口

(富山県部会事務局)
富山河川国道事務所
富山県土木部
土木部参事・建設技術
企画課長



富山県 教育委員会
県立学校課 指導主事

富山大学
学長補佐

富山県立大学 工学部環境・
社会基盤工学科准教授 (代理)

富山工業高校
校長 (代理)

富山工業高校
土木工学科長

桜井高校
校長

桜井高校
土木科学科長

高岡工芸高校
土木環境科主任

南砺福野高校
農業環境科主任

富山労働局 職業対策課長

(一社)富山県建設業協会
常務理事

(一社)建設コンサルタンツ協会
北陸支部 副支部長

(一社)富山県測量設計業協会
副会長

富山県地質調査業協会 会長

(一社)日本道路建設業協会
北陸支部 幹事

伏木富山港湾事務所
副所長

伏木富山港湾事務所
前任建設管理官

黒部河川事務所
調査課長
利賀ダム工事事務所
事務所長
立山砂防事務所
副所長

随行者

○ ○ ○ ○ ○ ○

随行者

○ ○ ○ ○ ○ ○

記者席

○ ○ ○

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会 2017/6/27 出席者名簿

所 属	役 職	氏名	出席
(一社)日本建設業連合会	北陸支部 広報委員	永田 健二	×
(一社)富山県建設業協会	常務理事	木嶋 弘	○
(一社)建設コンサルタンツ協会	北陸支部 副支部長	山本 信二	○
(一社)富山県測量設計業協会	副会長	鷲北 慎一	○
富山大学	学長補佐	堀田 裕弘	○
富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科		手計 太一	×
富山工業高校	校長	松倉 泉	×
	土木工学科長	帰山 寛	○
桜井高校	校長	高松 敬郎	○
	土木科学科長	稲垣 利治	○
高岡工芸高校	土木環境科主任	内山 純治	○
南砺福野高校	農業環境科主任	中藪 睦	○
富山労働局	職業対策課長	佐野 悌	○
北陸地方整備局 建政部	計画・建設産業課長	愛内 友治	×
富山河川国道事務所	事務所長	福濱 方哉	○
富山県	土木部参事・建設技術企画課長	舟田 浩志	○
富山県教育委員会	県立学校課 指導主事	岩原 善延	○
富山県地質調査業協会	会長	津嶋 春秋	○
(一社)日本道路建設業協会	北陸支部 幹事	林 和夫	○

(代理：准教授
呉 修一)
(代理：教頭
篠原 俊一郎)

○：部会長

オブザーバー

黒部河川事務所 調査課長 岡嶋 康子
立山砂防事務所 副所長 金子 秀樹
利賀ダム工事事務所 事務所長 山田 幸男
伏木富山港湾事務所 副所長 武田 均
伏木富山港湾事務所 前任建設管理官 若島 宏治

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

設立趣旨

北陸地方における建設界では、少子高齢化の進展や労働人口の減少に加え、近年の建設投資の大幅な減少による受注競争の激化等により、建設業者数や建設業就業者数も減少しており、とりわけ離職者の増加や若年入職者の減少等の厳しい状況に直面している。また、これらの状況については、これまで建設界の持つ魅力を建設界全体として発信することや建設界に対する好印象を醸成することが、うまくできてこなかったことも主因の一つと考えられる。

このような状況下においては、将来にわたる社会資本の整備・維持管理及びその品質確保や、冬期の除雪を含む災害時の対応等を通じた地域の維持等に支障が生じることが懸念されることから、地域における担い手の確保・育成は極めて重要な課題となっており、平成26年には、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」、「建設業法」「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」のいわゆる担い手三法が改正され、建設工事の担い手の育成と確保について、建設業者団体や国等の責務が明確化されたところである。

上記をふまえ、北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって担い手の確保・育成の取組みを推進することを目的としたプラットフォームとして、「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」を設置する。

「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」規約

(設置)

第1条 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(目的)

第2条 協議会は、北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって担い手の確保・育成の取組みを推進することを目的とする。

(構成員)

第3条 協議会の構成員は、別紙1のとおりとする。

(座長)

第4条 協議会の座長は、北陸地方整備局長をもってあたる。

2 座長に事故があるときは、構成員のうちから座長が指名する者が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、座長が招集する。

2 構成員は、あらかじめ指名した者を代理として会議に出席させることができる。

3 座長が必要と認めるときは、構成員以外の者に対し、協議会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

(部会)

第6条 地域における特定の課題等について検討を行うため、新潟、富山、石川の各県に部会を置く。

2 各部会は、別紙2に掲げる会員をもって構成する。

3 各部会の部会長は、別紙2のとおりとする。

4 部会長が必要と認めるときは、会員以外の者に対し、部会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

(事務局)

第7条 会議および部会の庶務は、北陸地方整備局企画部及び建政部が関係機関の協力を得て処理する。

(雑則)

第8条 この規約に定めるもののほか、会議の運営に関する事項その他必要な事項は、座長が定める。

附 則 この規約は、平成26年10月3日から施行する。

附 則 この規約は、平成27年3月17日から施行する。

附 則 この規約は、平成28年3月24日から施行する。

附 則 この規約は、平成29年4月1日から施行する。

北陸建設会の担い手確保・育成推進協議会 構成員

	所 属	役 職
1	(一社) 日本建設業連合会	北陸支部長
2	(一社) 新潟県建設業協会	会長
3	(一社) 富山県建設業協会	会長
4	(一社) 石川県建設業協会	会長
5	(一社) 建設コンサルタント協会	北陸支部長
6	(一社) 新潟県測量設計業協会	会長
7	(一社) 富山県測量設計業協会	会長
8	(一社) 石川県測量設計業協会	会長
9	新潟大学 工学部 建設学科	
10	長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 環境・建設系	
11	富山大学 工学部長	
12	富山県立大学 工学部 環境工学科	
13	金沢大学 理工研究域 環境デザイン学類	
14	金沢工業大学 環境・建築学部 環境土木工学科	
15	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科	
16	石川工業高等専門学校 環境都市工学科	
17	新潟工業高校	校長
18	新発田南高校	校長
19	富山工業高校	校長
20	小松工業高校	校長
21	金沢市立工業高校	校長
22	新潟労働局	職業安定部長
23	富山労働局	職業安定部長
24	石川労働局	職業安定部長
25	◎北陸地方整備局	局長
26	北陸地方整備局	企画部長
27	北陸地方整備局	建政部長
28	○北陸地方整備局	環境調整官 地方事業評価管理官
29	信濃川河川事務所	事務所長
30	新潟国道事務所	事務所長
31	○富山河川国道事務所	事務所長
32	○金沢河川国道事務所	事務所長
33	北陸技術事務所	事務所長
34	新潟県	土木部長
35	新潟県教育委員会	高等学校教育課長
36	新潟県教育委員会	義務教育課長
37	富山県	土木部長
38	富山県教育委員会	県立学校課長
39	石川県	土木部長
40	石川県教育委員会	教育次長 兼 学校指導課長
41	新潟市	土木部長
42	北陸地質調査業協会	理事長
43	(一社) 日本道路建設業協会北陸支部	支部長

◎：座長

○：部会長

富山県部会会員名簿

	所 属	役 職
1	(一社) 日本建設業連合会	北陸支部 広報委員
2	(一社) 富山県建設業協会	常務理事
3	(一社) 建設コンサルタント協会	北陸支部 副支部長
4	(一社) 富山県測量設計業協会	副会長
5	富山大学 工学部長	学長補佐
6	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工 学科	
7	富山工業高校	校長
8	富山工業高校	土木工学科長
9	桜井高校	校長
10	桜井高校	土木科学科長
11	高岡工芸高校	土木環境科主任
12	南砺福野高校	農業環境科長
13	富山労働局	職業対策課長
14	建政部	計画・建設産業課長
15	○富山河川国道事務所	事務所長
16	富山県	土木部参事・建設技術企画課長
17	富山県教育委員会	県立学校課長
18	富山県地質調査業協会	会長
19	(一社) 日本道路建設業協会	北陸支部 幹事

○：部会長

平成29年度の活動予定 (富山県部会)

資料2
 H28.12.21
 第2回富山県部会資料

◆ 大学カリキュラムに連続講座を開設 (北陸地方整備局)

富山県立大学	
対象	1年生
学期	前期
概要 (予定)	◆地域の物語 ◆個別事業+現場見学(×2)



富山県立大学1年生による現場見学の様子

◆ 建設系高校における講座の開設等 (北陸地方整備局・富山県・富山県建設業協会 等)

	富山工業高校			桜井高校			
	3年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	
対象	3年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	
学期	1学期	2学期	2学期	1学期	2学期	2~3学期	
概要 (予定)	◆ 現場見学 (建設業協会)	◆ 現場見学 (埋立浚渫協会) ◆ 講座 (建設業の魅力と役割)	◆ 現場見学 (建設業協会) ◆ 座学 (インフラの歴史と役割)	◆ 現場見学 (建設業協会)	◆ 現場見学 (宇奈月ダム)	◆ 現場見学 (海岸工事) ◆ 講座×2 (建設業の魅力と役割等)	
	高岡工芸高校			南砺福野高校			
	3年生	2年生	2年生	1年生	2年生	1・3年生	1・2年生
対象	3年生	2年生	2年生	1年生	2年生	1・3年生	1・2年生
学期	1学期	1学期	2学期	1学期	1学期	2学期	2学期
概要 (予定)	◆ 現場見学	◆ 現場見学 (建設業協会)	◆ 現場見学 (建設業協会) ◆ 講座 (建設業の魅力と役割)	◆ 現場見学 (利賀ダム)	◆ 現場見学 (利賀ダム)	◆ 現場見学 (建設業協会)	◆ 講座 (建設業の魅力と役割)

※その他、関係機関個別に現場見学等を実施予定。

建設系学生・生徒への活動【インターンシップの充実】（富山県部会）

◆ 建設系高校生へのインターンシップ

- 対象学生：建設系学科の高校生
- 実習時期：概ね7月～10月
- 実習場所：県内の企業、官公庁
- 実習内容：勤労観・職業観の育成、就業体験
- 実施機関：建設コンサルタンツ協会、県建設業協会、測量設計業協会、北陸地方整備局
- ※ 従来の業団体との連携に加え、協議会として連携を図り、インターンシップを充実



インターンシップの流れ
(富山県インターンシップ推進協議会HPより)

◆ 大学・専門学校生へのインターンシップ (富山県インターンシップ推進協議会との連携)

- 富山県内の大学・専門学校が加盟する富山県インターンシップ推進協議会と連携を図り、インターンシップ情報・活動の充実を図る。
- 協議会加盟学校：富山大学、富山県立大学、富山国際大学、高岡法科大学、富山短期大学、富山高等専門学校
- 実施機関：県建設業協会、建設コンサルタンツ協会、測量設計業協会、地質調査業協会、富山県、北陸地方整備局

◆ 高校生を対象としたSABO体験楽校（北陸地方整備局）

県内の高校生を対象に、砂防現場の実体験や工事施工に携わる人々との交流を通し、学校の授業では得難い砂防の工事を実際に体験。

- 対象学生：富山県内の高校生10名
- 実習時期：夏休み中2泊3日
- 実習場所：北陸地方整備局 立山砂防事務所管内

◆ キャンプ砂防（北陸地方整備局）

- 目的：中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し、地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考える。
- 対象学生：砂防を専攻する大学生、又は砂防に関心を持つ大学院・大学・高専の学生
- 実習時期：概ね7月～9月の1週間程度
- 実習場所：北陸地方整備局管内砂防事業所管事務所

H28 SABO体験



山腹工体験

情報化施工体験

H28 キャンプ砂防



コンクリート打設体験

普通高校・中学・小学校（保護者や教員等含む）等への取り組み（富山県部会）

◆ 社会に学ぶ 14歳の挑戦（富山県教育委員会）

行動領域が広がり活動が活発になる中学2年生が、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身につけることを目指す。

- 時期：地域や学校の実情等を踏まえて設定
- 期間：1週間（実際の活動は土日を除く5日間）
- 対象：県内全公立中学校で実施



冊子：14歳の挑戦

◆ 立山カルデラ砂防体験学習会（富山県立山カルデラ砂防博物館）

立山カルデラを実際に訪れ、自然・歴史と砂防を自分の目で確かめる。

- 日時：平成29年7月～10月秋
- 参加資格：小学3年生以上（小学生は保護者同伴）。
- 内容：立山カルデラまでの移動手段として、立山砂防事務所の砂防工事専用軌道のトロッコ列車を利用するコース。立山カルデラまでの移動にバスを利用するコース。本宮砂防えん堤、護天涯の碑・噴泉、白岩砂防えん堤を巡る（文化遺産巡りコース）白岩砂防えん堤を見学後、常願寺川下流の大転石などを巡る（常願寺川流域コース）



立山カルデラ砂防体験学習会の様子

◆ 県政バス教室の実施（富山県）

子ども達を対象とした県政バス教室「富山どぼく発見！ツアー」の開催を予定。

◆ 土木事業を紹介する小冊子の作成（富山県土木部）

各種の土木事業を紹介する小冊子「とやまの土木」を作成し、県内全ての学校へ配布。



普通高校・中学・小学校（保護者や教員等含む）等への取り組み（富山県部会）

◆ 市民現場見学会の実施（日本建設業連合会 北陸支部）

平成29年度に大学生や高専学生の夏季休暇期間（7月～9月）に現場見学会を予定。

◆ 建設コンサルタントをPRする冊子の配布（建設コンサルタンツ協会北陸支部）

建設コンサルタントの「仕事と魅力」の理解促進を図る「社会貢献活動」の一環として、北陸支部管内の小学校、中学校へ「出前講座」のチラシ等を配布予定。

◆ 「とやま建設フォトコンテスト」（県建設業協会）

広く一般の方々を対象に、建設業に関心、理解を深めてもらうための広報として写真を募集・表彰
募集期間：10月～翌1月

◆ インフラツーリズム（県測量設計業協会）

高校生を対象に、先人たちの知恵や功績を知ってもらうために、県内の土木遺産や施設などを見学し、土木への関心を高める。H29活動に向けては、協会員企業の若手技術職員から業界の「魅力発信」等の方策に関して意見を聴いた上で、時期、対象、方法を計画予定。

◆ 小学校での測量教室の開催（県測量設計業協会）

国土地理院北陸地方測量部の協力を得て地図教室と測量教室を実施予定。実習では測量機器の説明・実習のほか、身近なものを利用して「測る」知恵を学んでもらう。

◆ 現場見学会の実施（県建設業協会、県地質調査業協会）

小学生と保護者を対象に現場見学会及び子供防災教室を実施予定。



第7回 とやま建設フォトコンテスト 特選



富山市立柳町小学校での測量教室
「地図教室と測量体験学習」



H28親子現場見学会の様子

その他の取り組み（富山県部会）

◆ 女性も活躍する建設業界に向けた情報発信・環境改善

女性の視点で発掘した建設業の重要性や魅力をPRするためのパンフレット「TSUKURU」（H28年度作成）を配布。（富山県・県建設業協会）

建設現場の環境改善に向けたけんせつ小町と女子学生の対談を実施予定。（北陸地方整備局）



TSUKURU 目次

◆ 将来の建設業を担う人材の入職・定着・育成（富山県）

①労働環境改善

トイレ、シャワー室の設置、空調服の導入、労働条件改善のための社内規定の整備などへの支援

②資格取得、技能研修等の実施

在職者で、建設現場で必要とする土木・建築施工管理技士やクレーン操作等への支援

③雇用型訓練を委託

新たに中途採用で女性や若者の技術者等を雇用して人材育成を行う建設企業への支援



けんせつ小町と女子学生による座談会の様子

◆ 講座、研修の充実（県建設業協会）

①就職直前技能向上研修

次代を担う若者に対しスムーズな入職と定着の促進を図るため、理解が深まるよう就職直前技能向上研修を企画・検討

②新入社員フォローアップ研修

生活環境の変化と業務に追われる毎日から、悩みや不安を解消できず自分を見失いがちにならないよう新入社員フォローアップ研修を充実。

③建設業資格取得支援講座

土木施工管理技術検定試験や建設業経理士試験の取得に対し、試験直前の対策講座を実施。建設業への魅力や仕事に対する理解を深めてもらい、担い手確保を促進。

平成29年度 建設系学生・生徒への取り組み 講座開設等における役割分担(案)

◆大学カリキュラムの連続講座の開設

H28.12 時点

機関	学年	回数	カリキュラム	H29予定	(参考)H28実績		(参考)H27実績	
富山県立大学	(1年生) 前期	1回目	地域の物語	立山砂防 or 富山河国	立山砂防(総論)	6月24日	富山河国(総論)	6月19日
		2回目	個別事業+現場		立山砂防(砂防)	7月5日	富山河国(道路)	6月26日
		3回目	個別事業+現場	利賀ダム工事	利賀ダム工事	7月30日	伏木富山(港湾)	7月3日
							富山河国・伏木富山	7月10日

H29年度の開催時期・実施内容は学校側と今後調整

富山大学	H29年度以降、調整							
------	------------	--	--	--	--	--	--	--

◆建設系高校における講座の開設等

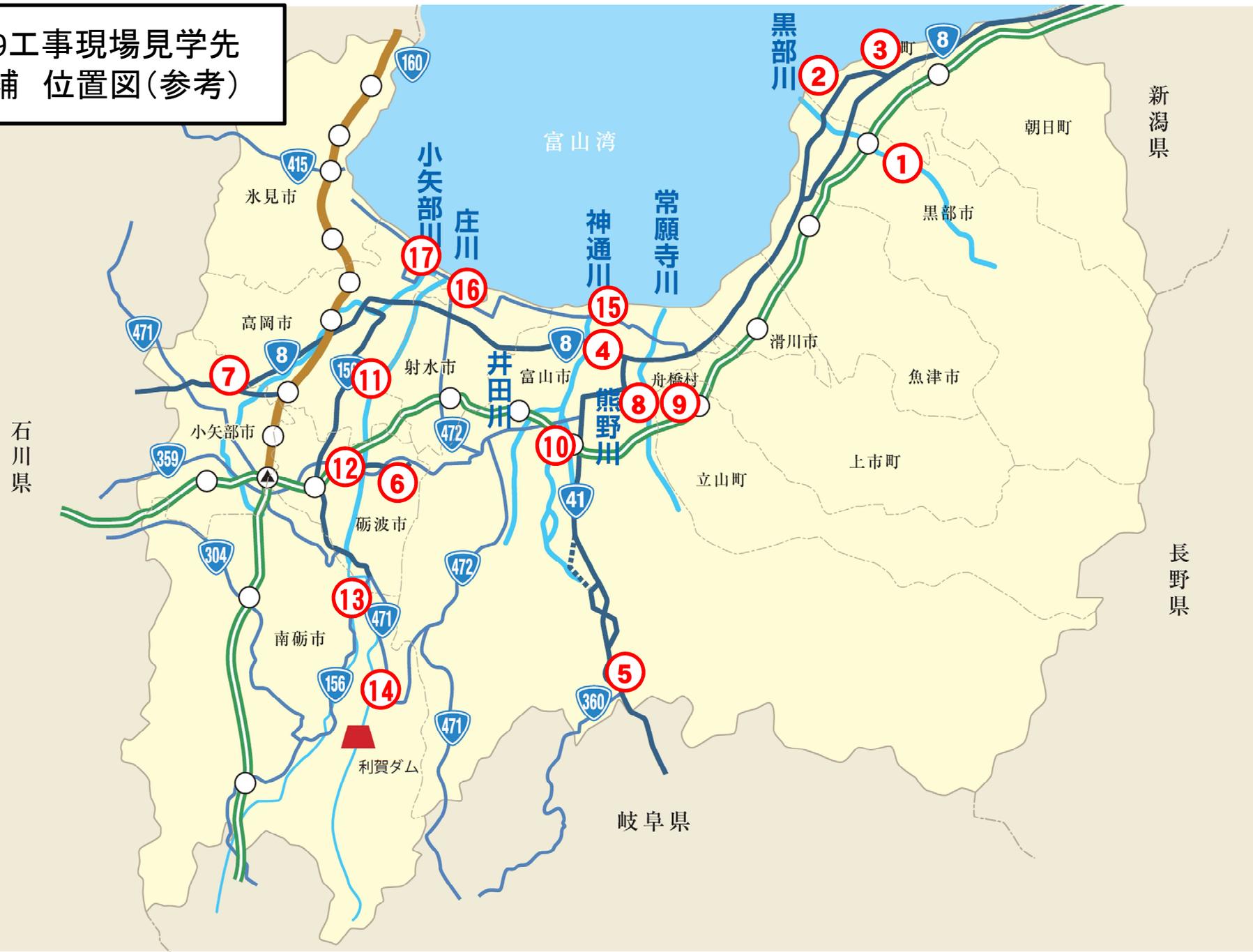
機関	学年	回数	カリキュラム	H29予定	(参考)H28実績		(参考)H27実績	
富山工業	3年生	1学期	現場見学 (建設業協会主催)	建設業協会(行政連携)	建設業協会 (富山県)	7月12日		
	1~3年生	夏期	現場見学 (SABO体験学校)	立山砂防	立山砂防	8月2~4日	立山砂防	8月4~6日
	1年生	2学期	現場見学 (埋立浚渫協会共催)	伏木富山港湾	伏木富山	9月6日	伏木富山港湾	9月8日
	2年生	2学期	現場見学 (建設業協会主催)	建設業協会(行政連携)	建設業協会 (富山河国・富山県)	9月23日	富山市・富山県・富山河国	9月25日
	2年生	2学期	座学 (インフラの歴史と役割)	伏木富山港湾	伏木富山・富山河国	12月9日	伏木富山港湾	12月11日
	1年生 +保護者	2学期	講座 (建設業の役割と魅力)	富山県・建設業協会	富山県・建設業協会	12月13日		
桜井高校	3年生	1学期	現場見学 (建設業協会主催)	建設業協会(行政連携)	建設業協会 (黒部河川・富山県)	6月3日	富山県・黒部河川	5月29日
	1~3年生	夏期	現場見学 (SABO体験学校)	立山砂防	立山砂防	8月2~4日	立山砂防	8月4~6日
	2年生	2~3学期	現場見学 (海岸工事)	黒部河川	黒部河川	10月6日	黒部河川	9月28日
	1年生	2学期	現場見学 (宇奈月ダム見学)	黒部河川	黒部河川	10月25日	黒部河川	10月27日
	2年生 +保護者	2学期	講座 (建設業の役割と魅力)	富山県・建設業協会	富山県・建設業協会	12月19日		
	2年生	3学期	講座	黒部河川	黒部河川	2月	黒部河川	2月16日
高岡工芸	3年生	1学期	現場見学	富山河国	富山河国	7月13日	富山河国	7月2日
	2年生	1学期	現場見学 (建設業協会主催)	建設業協会(行政連携)	建設業協会 (富山県)	7月15日		
	2年生	2学期	現場見学 (建設業協会主催)	建設業協会(行政連携)	建設業協会 (富山河国・富山県)	9月30日	高岡市・富山県・富山河国	10月2日
	2年生 +保護者	2学期	講座 (建設業の役割と魅力)	富山県・建設業協会	富山県・建設業協会	12月12日		
南砺福野	1年生	1学期	現場見学	利賀ダム工事	利賀ダム工事	7月12日	利賀ダム工事	7月10日
	2年生							
	1~3年生	2学期	現場見学 (建設業協会主催)	建設業協会(行政連携)	建設業協会 (富山河国・富山県)	10月18日	富山県・伏木富山・富山河国	10月20日
	1~2年生 +保護者	2学期	講座 (建設業の役割と魅力)	富山県・建設業協会	富山県・建設業協会	10月1日		

H29年度の開催時期・実施内容は代表事務所と学校側で今後調整

平成29年度 工事現場見学先候補リスト

1	工事内容(工事名)	種別	時期	地先	内容	調整者・連絡先		
						機関・団体名	担当課	担当者
1	黒部川特有の堤防侵食対策工(縦工)	河川	11～翌1月	黒部市 宇奈月町浦山	日本有数の急流河川である黒部川において、堤防浸食を防止するための黒部川独自の工法である縦工の施工現場を見学することができる。期間中は、バックホウによる掘削や、クレーンによる根固めブロックの据付等を実施予定。	黒部河川事務所	調査課	岡嶋 康子
2	富山湾の寄り回り波に耐える大型ブロックの製作(海岸コンクリートブロック製作工)	海岸	11～翌2月	入善町 声崎	日本一侵食の激しい下新川海岸において、離岸堤の異形ブロックの製作を見学することができる。期間中は30tを超える大型ブロックの製作作業(コンクリート打設、脱型、転置)を実施中。			
3	海上で船により施工する副離岸堤工事(副離岸堤新設工事)	海岸	8～9月	入善町 吉原	日本一侵食の激しい下新川海岸において、全国でも設置例の少ない副離岸堤の新設工事を見学することができる。期間中は、起重機船(クレーン付の作業船)でのブロック投入や、潜水士によるブロック据付作業を見学することができる。			
4	国道8号豊田新屋立体事業の工事	道路	10～翌2月	富山市飯野 ～新屋地先	富山跨線橋下部工事(橋台工、橋脚工)の施工現場を見学することができる。	富山河川国道事務所	調査第二課	荒川 哲郎
5	国道41号猪谷楡原道路事業の工事	道路	8～11月	富山市猪谷 ～片掛地先	神通川を渡河する猪谷橋下部工事(橋台工、橋脚工)、片掛橋下部工事(橋脚工)及び道路改良(切土)工事の施工現場を見学することができる。			
6	国道359号砺波東バイパス事業の工事	道路	7～翌3月	砺波市芹谷 ～頼成地先	本線高架橋区間であるいかるぎの大橋下部工事(橋台工、橋脚工)、上部工事及び和田川共同水路を渡河する橋梁上部工事の施工現場を見学することができる。			
7	国道8号小矢部地区交通安全対策事業の工事	道路	9～翌3月	小矢部市芹川地先	小矢部川を渡河する新設の茅鯛橋(ひぐらしばし)下部工事(橋脚工)及び上部工事の施工現場を見学することができる。			
8	常願寺川(左岸)急流河川対策工(低水護岸工事)	河川	11～翌2月	富山市朝日	急流河川常願寺川において、堤防を洪水から守るため、河岸の侵食・洗掘を防ぐために必要となる河岸防護工としての低水護岸工事(2工区、施工延長約170m)を見学することができる。 急流河川対策工法、ブロックの大きさ、バックホウによる掘削、クレーンによる根固めブロック及び根固め水制の設置などを確認することができる。	富山河川国道事務所	調査第一課	池田 大介
9	常願寺川(右岸)急流河川対策工(低水護岸工事)	河川	11～翌2月	立山町利田	急流河川常願寺川において、堤防を洪水から守るため、河岸の侵食・洗掘を防ぐために必要となる河岸防護工としての低水護岸工事(施工延長約60m)を見学することができる。 急流河川対策工法、ブロックの大きさ、バックホウによる掘削、クレーンによる根固めブロック及び根固め水制の設置などを確認することができる。			
10	神通川(左岸)急流河川対策工(低水護岸工事)	河川	11～翌2月	富山市鶯坂	急流河川神通川において、堤防を洪水から守るため、河岸の侵食・洗掘を防ぐために必要となる河岸防護工としての低水護岸工事(2工区、施工延長約90m)を見学することができる。 急流河川対策工法、ブロックの大きさ、バックホウによる掘削、クレーンによる根固めブロック及び根固め水制の設置、仮締切工の状況などを確認することができる。			
11	庄川(右岸)急流河川対策工(低水護岸工事)	河川	11～翌2月	射水市土合	急流河川庄川において、堤防を洪水から守るため、河岸の侵食・洗掘を防ぐために必要となる河岸防護工としての低水護岸工事(施工延長約30m)を見学することができる。 急流河川対策工法、ブロックの大きさ、バックホウによる掘削、クレーンによる根固めブロック及び根固め水制の設置、仮締切工の状況などを確認することができる。			
12	庄川(左岸)急流河川対策工(低水護岸工事)	河川	11～翌2月	砺波市中中条	急流河川庄川において、堤防を洪水から守るため、河岸の侵食・洗掘を防ぐために必要となる河岸防護工としての低水護岸工事(3工区、施工延長約180m)を見学することができる。 急流河川対策工法、ブロックの大きさ、バックホウによる掘削、クレーンによる根固めブロック及び根固め水制の設置、仮締切工の状況などを確認することができる。			
13	鋼アーチ橋の架設(利賀ダム庄川橋梁上部工事)	ダム	6～11月	南砺市利賀村 楢原地先	利賀ダム建設事業における工事用道路である庄川橋梁(鋼上路式アーチ橋)の上部工架設(ケーブルクレーン)現場を見学することができる。	利賀ダム工事事務所	調査設計課	本田 敏也
14	鋼アーチ橋の架設(利賀ダム豆谷橋梁上部その2工事)	ダム	6～11月	南砺市利賀村 大豆谷地先	利賀ダム建設事業における工事用道路である豆谷橋梁(鋼中路式ローゼアーチ橋)の上部工架設(トラベラクレーン)現場を見学することができる。			
15	耐震岸壁整備のための浚渫工(伏木富山港(富山地区)岸壁(-10m)(2号)(改良)築造工事)	港湾	10月	富山市東岩瀬町	古い町並みが残る東岩瀬町にある富山港の2号岸壁において、岸壁施設の老朽化対策と併に、大地震に備えた耐震強化岸壁の整備をしている。期間中はグラフ船による港内の浚渫工事を実施予定。	伏木富山港湾事務所	前任建設管理官	若島 宏治
16	鋼管杭打設工(伏木富山港(新湊地区)岸壁(-12m)(北)築造工事)	港湾	9～11月	射水市越の湯町地先	コンテナ取扱能力の拡大することを目的に、棧橋式構造の岸壁における本体工、浚渫・土捨工、付工を施工するもので、本体工の鋼管杭打込(杭長最大53mをCJV工法にて打設)の施工現場を見学できる。期間中は、杭打船による鋼管杭打込等を実施予定。			
17	岸壁改良工(伏木富山港(伏木地区)岸壁(-10m)改良工事)	港湾	7～10月	高岡市万葉ふ頭	大型クルーズ船入港に対応するため、既設岸壁の防舷材の改良及び岸壁水深の増深改良を実施。			

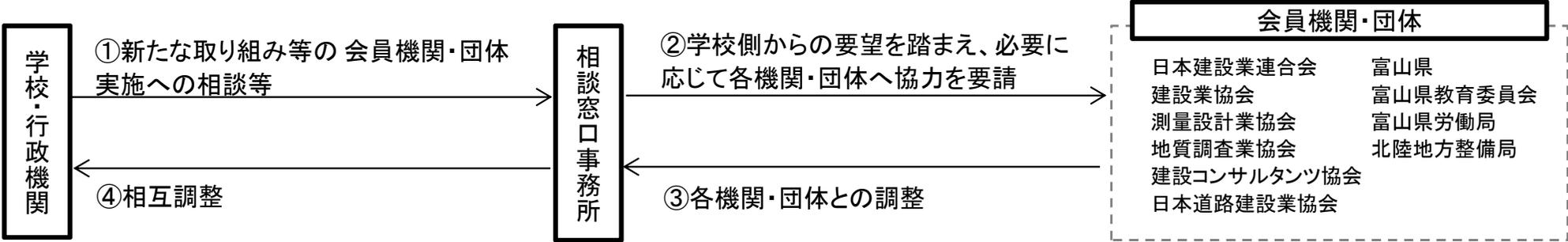
H29工事現場見学先
候補 位置図(参考)



新規取り組み等に関する事務所相談窓口(H29.6現在)

組織名	担当事務所	役職	氏名	連絡先	メールアドレス	備考
富山大学	富山河川国道事務所	調査第一課	池田大介	076-443-4715	ikedad85aa@mlit.go.jp	
富山県立大学						
高岡工芸高校						
富山工業高校	伏木富山港湾事務所	前任建設管理官	若島宏治	076-441-1904	wakashimak84xz@mlit.go.jp	
桜井高校	黒部河川事務所	調査課	岡嶋康子	0765-52-4686	okajimay84n8@mlit.go.jp	
南砺福野高校	利賀ダム工事事務所	調査設計課	本田敏也	0763-33-4761	hondat84th@mlit.go.jp	
富山県	富山河川国道事務所	調査第一課	池田大介	076-443-4715	ikedad85aa@mlit.go.jp	
富山県教育委員会						

(参考)活用フロー



※本相談窓口は、担い手確保に関する取り組みについて、これまでに各校と各機関・団体の間で築かれている既存の調整体制に変えるものではありません。今まで関係を持っていない機関・団体の協力が必要な場合や、複数の機関の協力が必要な取り組みなど、今後新たに実施を検討される場合の窓口として設置。

「富山県インターンシップ推進センター※」への登録状況

※平成29年4月～「富山県インターンシップ推進協議会」から組織変更

構成員企業皆様の「富山県インターンシップ推進センター」への登録を通じ、加盟校の県内学生を主として、就業体験の機会のマッチングを推進していくもの。（過年度からの担い手確保・育成に関する既存の枠組みの一つ）

平成29年6月時点で、インターンシップ推進センターHPにおいて、建設業29社（対前年度－1社）、建設コンサルタント業等11社（対前年度－3社）の登録状況。平成29年6月末現在、夏場の就業体験に向けて、企業の申請・学生の受入れを募集中。

【建設業】

企業・団体名	地域	協会
1 朝日建設株式会社	富山地区	○
2 安達建設株式会社	砺波地区	○
3 株式会社岡部	富山地区	○
4 岡本工業株式会社	富山地区	○
5 株式会社開進堂	高岡地区	
6 川田建設株式会社 北陸支店	砺波地区	○新
7 川田工業株式会社	砺波地区	○
8 共栄興業株式会社	富山地区	
9 黒部エムテック株式会社	新川地区	
10 坂井管工業株式会社	富山地区	
11 酒井建設株式会社	新川地区	○
12 笹嶋工業株式会社	砺波地区	○
13 昭和建設株式会社	高岡地区	○
14 有限会社シンワ電工	富山地区	
15 住澤塗装工業株式会社	富山地区	
16 第一交易株式会社	砺波地区	
17 タカノグループ（タカノ建設(株)・タカノホーム(株)）	富山地区	○
18 辻建設株式会社	富山地区	○
19 株式会社東城	新川地区	○
20 得能建設工業株式会社	砺波地区	○
21 砺波工業株式会社	砺波地区	○
22 日本海電業株式会社	新川地区	
23 株式会社野上緑化	富山地区	
24 株式会社ハマデン	富山地区	
25 株式会社林土木	富山地区	○
26 株式会社ほくつう 富山支店	富山地区	
27 北陸電気工事株式会社	富山地区	
28 松下電建株式会社 富山本店	富山地区	
29 松本建設株式会社	砺波地区	○

【学術研究、専門・技術サービス業、すべて】等

企業・団体名	地域	協会
1 株式会社アイパック	富山地区	
2 株式会社ジェック経営コンサルタント	富山地区	
3 株式会社上智	砺波地区	○新
4 株式会社新日本コンサルタント	富山地区	○
5 株式会社タムラ設計	富山地区	
6 日本海環境サービス株式会社	富山地区	
7 株式会社PCO	富山地区	
8 北電技術コンサルタント株式会社	富山地区	○
9 北陸コンサルタント株式会社	富山地区	○
10 株式会社理想経営	富山地区	
11 株式会社アーキジオ	高岡地区	○

【問合せ先】

（一財）富山勤労総合福祉センター TEL：076-482-3420

E-mail：info@internship-toyama.jp

HP：http://www.internship-toyama.jp

INTERNSHIP TOYAMA

[プライバシーポリシー](#)

[サイトマップ](#)

企業・団体の担当者様へ

[▶ インターンシップ登録の流れ](#)

[▶ 推進センター 加盟学校一覧](#)

[▶ 企業・団体登録お申し込み](#)

学生の皆さんへ

[▶ インターンシップとは](#)

[▶ インターンシップ保険](#)

[▶ 参加企業・団体一覧](#)

[▶ インターンシップ応募・登録](#)

[▶ お問い合わせ](#)

[▶ スケジュールとお知らせ](#)

[▶ 実績報告\(PDF\)](#)

[▶ アンケート\(報告書\)](#)

[▶ インターンシップ各種様式集](#)

※受け入れ企業・団体用、学校・学生用

富山県インターンシップ推進センター
 (一財) 富山勤労総合福祉センター
 富山市湊入船町9-1
 とやま目遊館2階
 TEL : 076-482-3420
 FAX : 076-482-3421
 E-mail :
 info@internship-toyama.jp



参加企業・団体様申し込み

お申込は下記のフォームより受け付けております。必要事項を入力して、確認するボタンをクリックして下さい。送信完了後、こちらからご連絡差し上げます。連絡がない場合は大変お手数ですが、お電話にてご連絡下さい。

[個人情報取り扱いについて>>](#)

こちらから申込書のwordをダウンロードできます。必要事項を記入の上、[こちら](#)までお送りください。

[企業用参加申込書\(word形式\)](#) [参加内容確認書\(word形式\)](#)

※は入力必須です。

事業所情報	
※企業・団体名	<input type="text"/>
※フリガナ	<input type="text"/>
ホームページ	<input type="text"/>
※所在地	〒 <input type="text"/> 住所 <input type="text"/>
※業種	<input type="text"/> <small>業種については総務省統計局「日本標準産業分類(平成19年改訂版)」に基づきご記入下さい。</small>
※業務内容 主要製品等	<input type="text"/>

ご連絡先	
※部署	<input type="text"/>
役職	<input type="text"/>
※氏名	<input type="text"/>
※フリガナ	<input type="text"/>
※TEL	<input type="text"/> 半角英数
FAX	<input type="text"/> 半角英数
※メールアドレス	<input type="text"/>
ご連絡方法	<input checked="" type="radio"/> メール <input type="radio"/> 電話

▼受入条件については、分かる範囲内でお答え下さい。

受入条件等情報	
受入可能時期	<input type="radio"/> 夏季 <input type="radio"/> 期間指定 (<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ~ <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日の間) <input type="radio"/> 未定
実習日数	<input type="radio"/> 問わない <input type="radio"/> 1週間 <input type="radio"/> 2週間 <input type="radio"/> 3週間 <input type="radio"/> 1ヶ月 <input type="radio"/> 1ヶ月以上 <input type="radio"/> その他 (<input type="text"/>)
受入総人数	<input type="radio"/> 問う (<input type="text"/> 人) <input type="radio"/> 若干名
実習場所	<input type="radio"/> 上記住所 <input type="radio"/> その他 (<input type="text"/>)
学部・学科指定	<input type="radio"/> 問わない 指定する [<input type="radio"/> 文科系 <input type="radio"/> 理科系] (詳細 <input type="text"/> 学部 <input type="text"/> 学科) <input type="radio"/> その他 (<input type="text"/>)
選考方法	<input type="radio"/> 先着順 <input type="radio"/> 書類選考 (書類提出締切日 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日) <input type="radio"/> 未定
留学生の受入	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない [希望出身国 <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり <input type="text"/>]
実習内容	<input type="text"/>

[▶ 確認画面へ](#)

富山県インターンシップ実施結果

就業体験学生数（学校別）

1163 名 (昨年943名)	{ 県内 976 県外 187	大学	834 名
		短期大学	116 名
		高等専門学校	213 名

県内：県内学校在籍学生数
 県外：県外学校在籍学生数

就業体験学生数（企業・団体別）

1163 名	{ 県内 942 県外 221	企業	960 名
		(内 県内 770 県外 190)	
		公共機関	203 名
		(内 県内 172 県外 31)	

県内：県内企業・団体で実習した学生数
 県外：県外企業・団体で実習した学生数

マッチング状況 申込企業・団体マッチング率 (B÷A) = 88.7%

参加申込数 (A) 397 社 (昨年335社)	{ 県内 244 県外 153	企業	347 社
		(内 県内 214 県外 133)	
		公共機関	50 団体
		(内 県内 30 県外 20)	

受入実施数 (B) 352 社 (昨年278社)	{ 県内 199 県外 153	企業	304 社
		(内 県内 171 県外 133)	
		公共機関	48 団体
		(内 県内 28 県外 20)	

学生の実施状況

学校数		県内	県外
78 校 (昨年県外学校90校)	{ 県内 7 県外 71	大学	4 校
		短期大学	1 校
		高等専門学校 (キャンパス)	2 校

学生数		県内	県外
1163 名 (昨年県外学生212名)	{ 県内 976 県外 187	大学	660 名
		短期大学	104 名
		高等専門学校	212 名

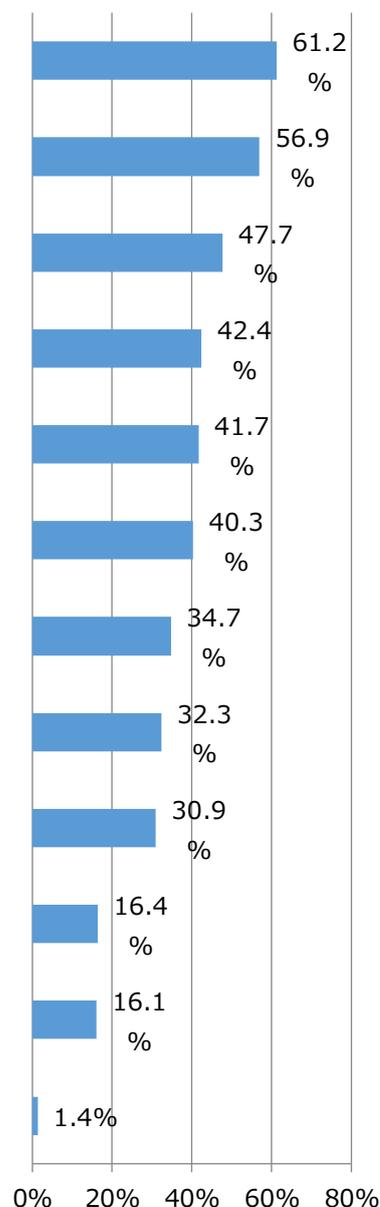
インターンシップ体験後アンケート結果報告(学生)

平成 28 年度のインターンシップが 8～9 月の間に実施され学生の就業体験が終了した。
今年度の就業体験の報告書の作成、ならびに今後のインターンシップのさらなる推進のため、
インターンシップの就業体験をした県内学校在籍の学生に対しアンケートを実施した。

・調査票配布	平成28年10月 1日
・回答締切	平成27年12月 7日
・対象者数	940名
・回答者数	585名
・発行日	平成29年1月31日

Q1 インターンシップに参加した目的は何ですか？（複数回答可）

項目	回答数	構成比
社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知りたいと思ったから	358	61.2%
自分がどういう職業や業種に向いているのかを選択するための経験として	333	56.9%
就職希望である業種の実情を知りたかった	279	47.7%
社会経験を通じて自分に足りない能力を見つけたかった	248	42.4%
就職活動に役立ちそうだから	244	41.7%
学校での単位取得のため	236	40.3%
学校での勉強と実社会との関連性を見つけたかった	203	34.7%
今後の学生生活の目標を明確にするため	189	32.3%
ビジネスマナーを身につけたかったから	181	30.9%
学校での専攻分野に関連する業界の実情を知りたかった	96	16.4%
インターンシップ先の企業等が就職希望の企業等であったから	94	16.1%
その他	8	1.4%



【その他の回答内容】

どのような職場でどのような業務をしているのか知りたかったから。また、経験してみたいと思ったから。

自分の得手不得手を見極めるため。

国外での生活を肌で感じてみたかった。

コミュニケーション能力の向上のため。

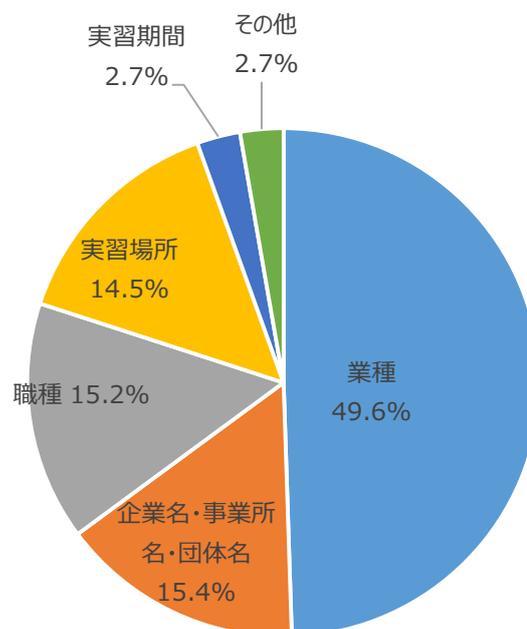
先輩からの勧めがあって。

インターンシップの内容に興味があったから。

中山間地域に興味があったから。

Q2 実習先を選ぶ際に最も重視した項目は何ですか？

項目	回答数	構成比
業種	290	49.6%
企業名・事業所名・団体名	90	15.4%
職種	89	15.2%
実習場所	85	14.5%
実習期間	16	2.7%
その他	16	2.7%



【その他の回答内容】

実習内容

職種とどういことを体験するか。

興味があるところ。

その業種の仕事について知りたかったから。

通勤可能距離

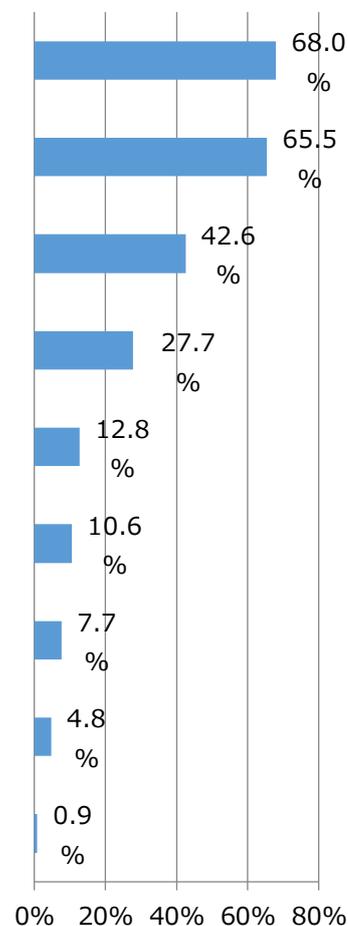
その会社の規模

実習内容(実習が多いとこ)

卒業研究との関連性

Q3 実習に参加するにあたってどのような準備をしましたか？（複数回答可）

項目	回答数	構成比
実施企業の業種や業務について調べた	398	68.0%
インターネットによる情報収集	383	65.5%
学校での説明会への参加	249	42.6%
学校主催による事前研修への参加	162	27.7%
先輩や社会人からの経験談を聞いた	75	12.8%
関連書籍（前年度実施結果報告書）などによる情報収集	62	10.6%
実習先から必要とされた知識の習得	45	7.7%
特にしなかった	28	4.8%
その他	5	0.9%



【その他の回答内容】

敬語の練習

質問リストの作成（企業のホームページや自分が希望している職種について）

就職支援企業の説明会への参加

スーツや作業着の用意

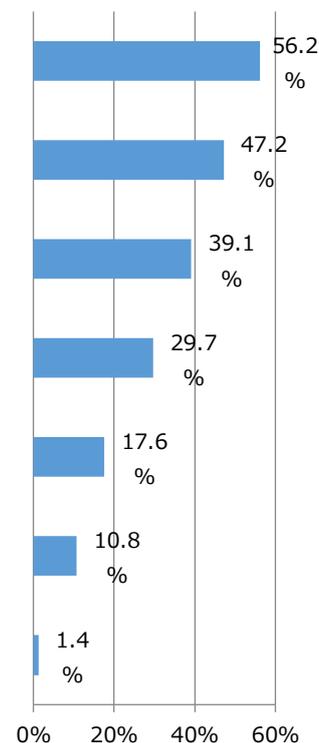
一般的なマナーの勉強

インターンシップ先の国についての調査

実習先から出された課題

Q4 実習内容はどのようなものでしたか？（複数回答可）

項目	回答数	構成比
業務体験型（通常社員が行っている業務の体験）	329	56.2%
会社見学型（工場・会社などを見学する）	276	47.2%
仕事疑似体験型（学生用に作成された議事業務での体験）	229	39.1%
講座・イベント型（キャリア意識を高めたり、その企業・業界について学習する）	174	29.7%
社員型（社員が行っている業務をまかされて体験する）	103	17.6%
研究型（企業内で研究実習を行う）	63	10.8%
その他	8	1.4%



【その他の回答内容】

プレゼンテーションや企画提案等

インターンの終わりに振り返りと学んだことについてパワーポイントで発表

アルバイトやパートが行っている業務をまかされて体験

自主企画立案、実行

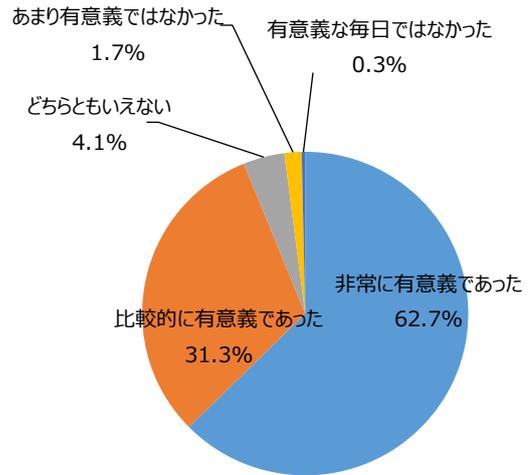
ダム建設地視察、講義

社員が行っている業務に同行

実習体験

Q5 実習期間は有意義な毎日でしたか？

項目	回答数	構成比
非常に有意義であった	367	62.7%
比較的に有意義であった	183	31.3%
どちらともいえない	24	4.1%
あまり有意義ではなかった	10	1.7%
有意義な毎日ではなかった	2	0.3%

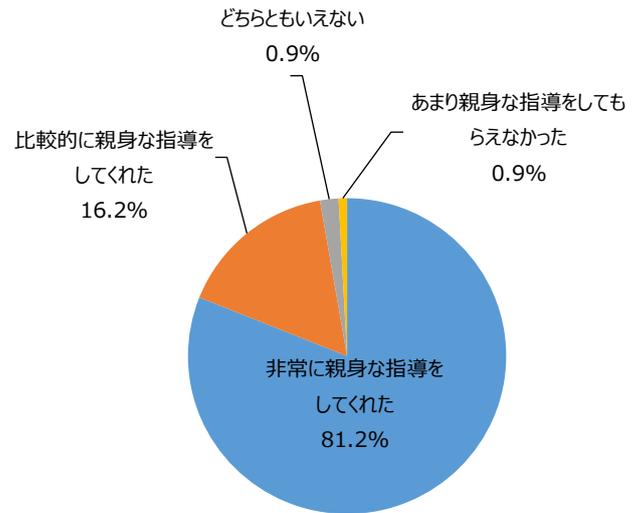


【有意義ではなかった理由】

- ・アルバイトのような実習が多かったから。贅沢かもしれないが、インターンシップならではの仕事を体験したかった。
- ・自分の前に長期インターンシップ生がおられたらしく、私もその人と同じ扱いをされた。基本的に指示はなしで放置された。（長期インターンシップ生は放っておいても業務ができるが、私は放っておかれても何をすればよいかわからない。）
- ・学校でやったことのあることばかりだったから。

Q6 実習先の方々は親身な指導をしてくださいましたか？

項目	回答数	構成比
非常に親身な指導をしてくださいました	475	81.2%
比較的に親身な指導をしてくださいました	95	16.2%
どちらともいえない	11	1.9%
あまり親身な指導をしてもらえなかった	5	0.9%
親身な指導をもらえなかった	0	0%

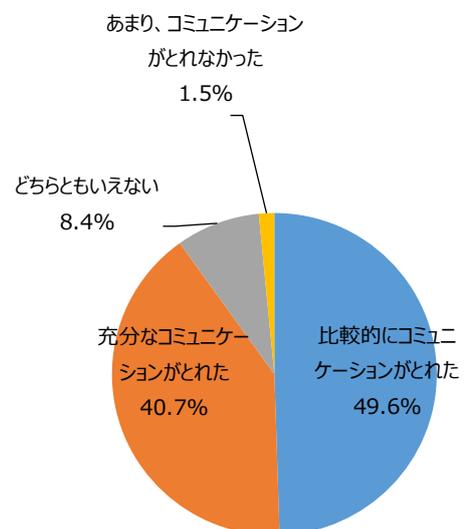


【不足していた指導内容】

1日の実習の振り返りをしてもらいたいと感じた。駄目だった点、反省すべき点を伝えて欲しかったが、指導係のような方はおらず、アドバイスをいただくことはできなかった。

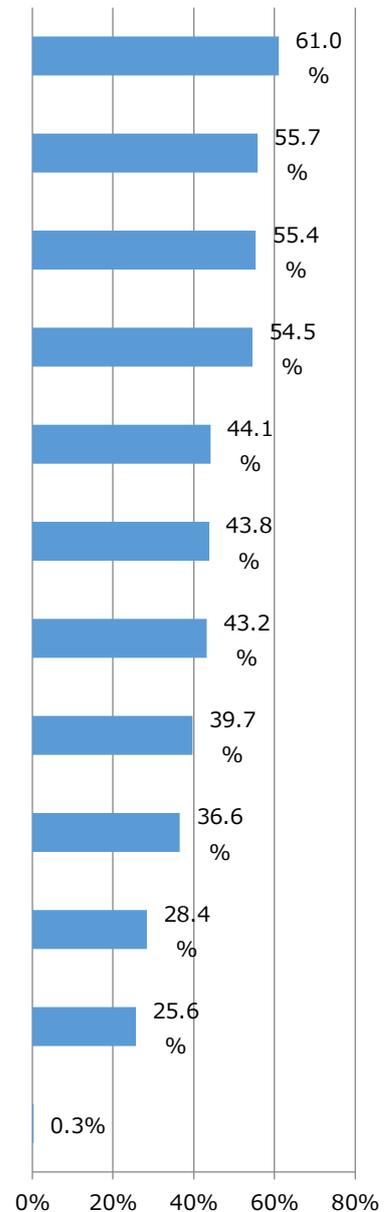
Q7 実習先の方々とコミュニケーションがとれましたか？

項目	回答数	構成比
比較的にコミュニケーションがとれた	290	49.6%
十分なコミュニケーションがとれた	238	40.7%
どちらともいえない	49	8.4%
あまり、コミュニケーションがとれなかった	9	1.5%
ほとんどコミュニケーションがとれなかった	0	0%



Q8 今回の実習であなたが得られたことは何ですか？（複数回答可）

項目	回答数	構成比
働くことがどういうことか実感できた	357	61.0%
学生と社会人の責任の違いを感じた	326	55.7%
自分に足りないものに気付くことができた。 (知識や技能など)	324	55.4%
コミュニケーションの大切さを感じた	319	54.5%
働くことの厳しさを理解することができた	258	44.1%
視野を広げて今後の就職先を選ぶ際の参考になった	256	43.8%
働くことのやりがいや充実感を知ることができた	253	43.2%
仕事に対する興味や関心が高まった	232	39.7%
マナーや常識の大切さを感じた	214	36.6%
学習意欲が強まった	166	28.4%
学んできたことが現場でどのように活かされているか 知ることができた	150	25.6%
その他	2	0.3%



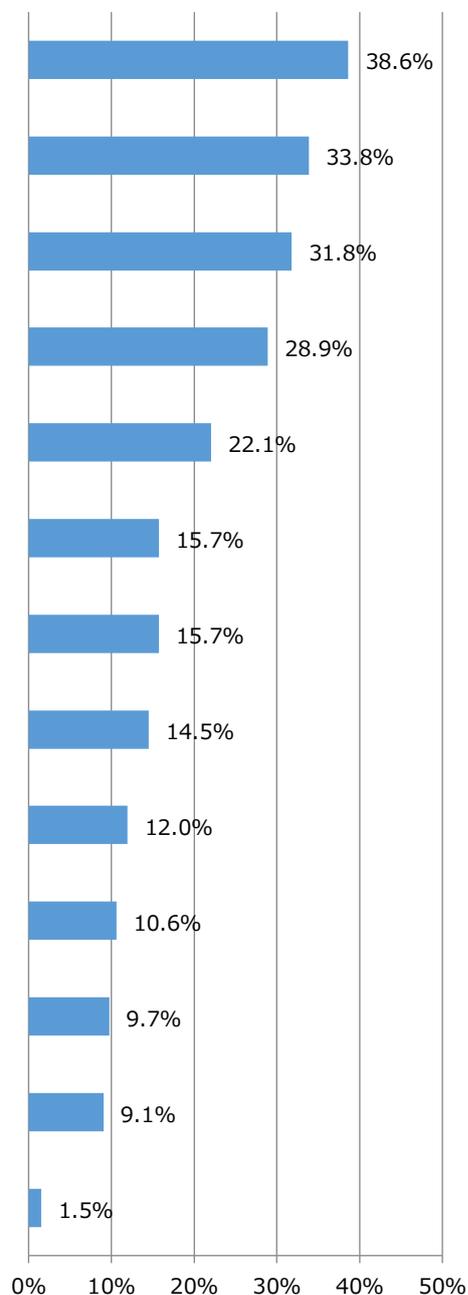
【実習で得られたその他の内容】

絶対にもっとましなところで就職してやるというやる気。

会社に入っても勉強を続けなければならない、日々勉強の毎日だと言っておられたためそのとおりだなと思った。

Q9 今回の実習で特に苦勞したことがありますか？（複数回答可）

項目	回答数	構成比
コミュニケーション能力	226	38.6%
言葉づかい・挨拶・身なりなどのマナーに関して	198	33.8%
専攻分野の知識不足	186	31.8%
業務内容の理解・習熟	169	28.9%
実務能力・技能の不足	129	22.1%
日報・報告書の作成	92	15.7%
通勤	92	15.7%
勤務時間や規則正しい時間管理	85	14.5%
パソコン等の情報機器の操作	70	12.0%
作業等に対する体力不足	62	10.6%
職場における人間関係	57	9.7%
企業の実環境・雰囲気	53	9.1%
その他	9	1.5%



【特に苦勞しその他の内容】

- ・自身の社会に対する知識不足を理解して、これから繋げていけるように自分の力にすること。
- ・業務に対して失敗を恐れず積極的に行動することができなかった。
- ・1日の実習の中で、決められた時間までに目標を達成するための予定の立て方や、予定よりも遅れている場合のリカバリー等。
- ・自己紹介
- ・風邪
- ・英語能力の不足
- ・言語の違い
- ・英語能力



URL: http://www.hrr.mlit.go.jp/gijyutu/i_Construction/hokuriku_ict.html

国土交通省では、「生産性革命」の20のプロジェクトを選定。平成29年度は、生産性革命「前進の年」として省をあげて取り組み、リーディングプロジェクトとしてのi-Constructionの推進により、建設現場の生産性向上を加速。今年度は、土工以外の分野としてICT 舗装を取り込むこととしています。

北陸地方整備局においても、ICT技術活用の拡大、コンクリート工の生産性向上、施工時期の平準化を推進し、建設現場のプロセス全体の最適化を図り、魅力ある建設現場の実現を目指していきます。

最新ニュース

今年度1回目の『i-Construction推進本部会議』を平成29年5月22日(月)に開催し、平成29年度の実施方針を決定しました。

＜ICT技術の活用＞

- ・ICT土工工事の規模の大きな工事(50,000m³以上)は、発注者希望型に拡大。
- ・ICT舗装工事(路盤工を含む)とICT浚渫工事を新規に導入。
- ・「入門者クラス」と「実践者クラス」の2タイプに分けて、ICT活用工事講習会を実施。
- ・自治体職員の参加も可能とした、研修や臨場検査を実施。
- ・H30年度以降に予定のICT活用工事(ICT土工・舗装工等)を対象に、CIMの「3次元測量・設計」を実施。



＜規格の標準化＞

- ・大型コンクリート構造物でのプレキャスト製品活用の促進(予備設計段階から比較検討、実施工との比較検証)
- ・事例集の充実等

＜施工時期の平準化＞

- ・ゼロ国債や繰越制度の活用、早期発注により平準化を推進。
- ・四半期毎に、地整全体、事務所単位、ブロック単位で「平準化」を把握
- ・地整内連絡会において情報を共有するとともに、今年度は特に設計業務関係の前倒し等の方策を検討。

本号の掲載内容

ICT技術の活用	基準類の改定内容整理、ICT活用工事講習会開催
規格の標準化	なし
施工時期の平準化	なし

基準類の改定内容をわかりやすく整理しました。

・ICT土工の改訂も含めた最新の基準類(ICT舗装の新基準含む)を一覧にてわかりやすく整理しました。HPでも閲覧可能です。

【H29年度の技術基準と積算要領を改訂】

- ・実践を踏まえた課題への対応
 - 7の技術基準と積算要領の改訂
- ・小規模工事への適用拡大、更なる効率化をもたらす新技術を活用
 - 12の技術基準類を新設・改定
- ・ICT舗装の新基準
 - 10の技術基準類を新設・改定

ICT土工における基準類の改訂について(H28～H29)

年度	基準番号	名称	改訂内容	備考
H28	1	道路用コンクリート舗装工事(1)
	2	道路用コンクリート舗装工事(2)
	3	道路用コンクリート舗装工事(3)
	4	道路用コンクリート舗装工事(4)
	5	道路用コンクリート舗装工事(5)
	6	道路用コンクリート舗装工事(6)
	7	道路用コンクリート舗装工事(7)
	8	道路用コンクリート舗装工事(8)
	9	道路用コンクリート舗装工事(9)
	10	道路用コンクリート舗装工事(10)
H29	11	道路用コンクリート舗装工事(11)
	12	道路用コンクリート舗装工事(12)
	13	道路用コンクリート舗装工事(13)
	14	道路用コンクリート舗装工事(14)
	15	道路用コンクリート舗装工事(15)
	16	道路用コンクリート舗装工事(16)
	17	道路用コンクリート舗装工事(17)
	18	道路用コンクリート舗装工事(18)
	19	道路用コンクリート舗装工事(19)
	20	道路用コンクリート舗装工事(20)



ICT活用工事講習会(入門者クラス)を3県で開催

「ICT技術の全面的な活用」を促進するため、建設業、測量、設計コンサルタント等の技術者、官公庁職員を対象にICT活用講習会を新潟県・富山県・石川県の3県で開催しました。

本年度は、昨年度のアンケートを踏まえ、ICT活用工事の経験がない技術者を対象とする「入門者クラス」と、ICT活用工事経験者を対象とした「実践者クラス」に分け、対象受講者に合わせたわかりやすい講習会となるよう工夫。

「入門者クラス」については、ICT活用工事の経験の無い技術者を対象に、ICT施工に関する基礎知識や基準・要領の解説を中心とした講義としました。

約500人が参加

・石川県 5月23日 127人
会場 石川建設総合センター
・富山県 5月24日 122人
会場 富山防災センター
・新潟県 5月25日 250人
会場 AM 新潟県建設会館
PM 新潟防災センター



<講義内容>

北陸ICT戦略推進委員会の各構成団体から協力を得て、講師を派遣。

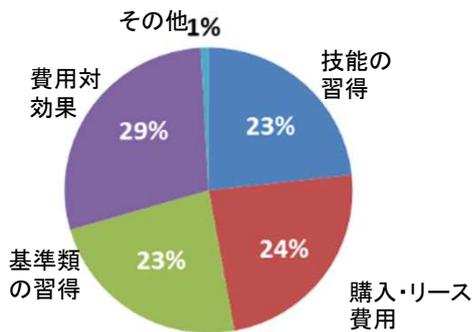
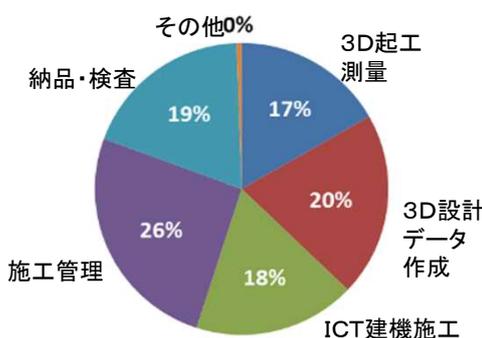
- ① ICT活用の概要
講師:北陸地方整備局企画部 技術検査官
- ② 各種基準・要領の説明
講師:(一社)日本建設機械施工協会i-Con普及WG
- ③ 地上レーザスキャナとUAVの機器説明
講師:(一社)全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会



<実施結果>

ICT施工技術に対する関心が非常に高く、多くの受講者が熱心に耳を傾けていた。

アンケート結果では、面管理となる出来形管理等の施工管理について、より詳しく知識を習得したい傾向が見受けられた。また、費用対効果や測量機器・重機の導入など経済的な不安を感じている声が5割を超えており、今後、導入効果の検証及びICT施工のメリットが引き出せるよう更なる検討が必要である。



<今後の予定>

2次元から3次元データ変換やTLS機器操作など、実技を中心とした「実践者クラス」の講習会を7月下旬に開催を予定しています。

i-Construction推進本部 事務局

(問い合わせ先) 北陸地方整備局 地方事業評価管理官 (2118)
企画部 技術管理課長 (3311)
企画部 施工企画課長 (3451)

〒950-8801 新潟市中央区美咲町1-1-1 新潟美咲合同庁舎1号館 Tel.025-280-8880(代)